



日刊 日四十二月八
日刊 日四十二月八
日刊 日四十二月八

豊作確實の豫想で 石城共販米大暴落

前回に比して約四十銭安

石城郡販米組合に於ける米共販
は去る二十一日の定期取引が
舊盆十六日に當つたので昨二
十六日に延期されたが同日の
相場は豫想の如く根堅かつた
十二圓台を割り前日に比して
約四十銭を暴落した米價の先
行き観測も全国的に豊作疑ひ
なしとの見方が有力で中央市
場は日に軟調の傾向があるので
來九月一日の共販米は十一圓
台が崩れはせぬかとさへ見ら
れてゐる尚ほ當日は出荷一四
三九俵で取引相場を上げれば
次の如くである

- 平一號(十一圓四十一銭)同
四號(十一圓四十二銭)飯野
(七十五銭)高久(四十五銭)
夏井(五十七銭)大野一號
(六十銭)同二號(六十八銭)
鹿島(五十五銭)平建一號
(六十三銭)同二號(七十一
銭)渡邊(五十八銭)

皇威宣揚 戦勝祈願

明日八幡神社で
平市主催皇威宣揚並に戦勝祈
願祭は明日二十五日午前十時市
内鎮座神社八幡神社に於て各
官公署員名譽職その他参列執
行される

公會堂委員會

平市では今二十四日午後一時
から公會堂建築臨時委員會を

菜種栽培の 指導講演

石城郡販米組合では四倉驛前
に經營する菜種搾油所の製油
が陸海軍部から優秀品の折紙
を附されて大賞買上げの注文
を受けてゐるに對し石城、双
葉地元の菜種では不足を告
げるので此の栽培奨励に關し
縣農試本場から技師田坂修一
郎農學士を聘して右栽培の指
導左記各所の講演を今二十四
日から開始した

納涼映画

廿七日市役所前
平市の社會事業助成會では來
る二十七日夜市役所前廣場に
於て同會の趣旨普及宣傳の納
涼映画を催されるがプログ
ラムは左の如くである
輝く天地 滿州移住地實況
軍事映畫(以上)

強力擴大な暖流で 秋刀魚漁遅れるか

來月の解禁に姿も見せまい 漁場も二、三百哩沖合

縣水試船城丸は鯉魚の探検
を閉じて秋刀魚漁に移る船体
船機の修理中であるが來九月
二十日から解禁される同漁に
つき岩手縣沖合最近の海況情
報によれば同沖合には意外に
強力擴大な暖流帯が横たはり
其の先端は北海道沖合にまで
及んでゐる海洋の大異變を現
在し其の結果であらう本年の
鮪、烏賊、鰯等の沿岸漁業
は皆でない不漁を見たが右の
海況から今年の秋刀魚漁は約
一ヶ月位遅れるのではないかと
と左記の如く打診されてゐる

湯本校の同窓會

石城郡湯本町小學校同窓會は

常識講座

シンボルは象徴の意、
精神的、抽象的な概念
を有形的、具體的な表
現したるもの、シンボ
リズムは事物の感覺ま
たは情調を音または色
等の技巧によつて現は
さんとする主義のこと

国防献金

湯本組自動車班
石城郡湯本町消防組自動車班
に對する慰問方法に關して協
議した

優勝を目指す石城軍 縣下体育大會選手決定

石城郡協賛部では來る九月二
十三日若松市に開催される縣
下大會に優勝を目指す各校を
集めて練習中であることは屢
報したが出場選手を左記に決
し今二十四日から向ふ五日開
平第三小學校に合宿して更に
一段の練習を續けてゐる

役員會

慰問方法を協議
平市の軍事委員會では今二十四
日午前十時から市會議事堂に
役員會を開き應召軍人遺家族
に對する慰問方法に關して協
議した

銃後人に 溢る赤誠

石城郡好間村の北好間第二區
では國民から獻金した二十七
圓を皇軍慰問費に區長の代表
で獻金を昨二十三日夜平署に
寄託した又當日平市一丁目三
一團部の子さん金一圓を平市
第一校六年生酒井一雄、五年
生菊地武彦兩君は金六十圓を
共に小使を節して貯めたもの
を皇軍慰問に平署に寄託す

合格者

平市職業紹介所の斡旋にか
る茨城縣日立製作所見習職工
採用試験は本月中旬平第一小
學校講堂及び相馬郡中村町役
場に於て行はれたが合格者は
左記の如くである

息子の搜索願

双葉郡大堀村の井出松永守雄
(一九)は四五日前平生の如く家
を出たまゝ姿を晦ましたが小
名濱町邊のカフェーに潜伏し
てゐる模様なので今二十四日
親元から平署に搜索方願出た
今晩は北の風、曇
明日は南西の風、晴
(小名濱町候所)

平市の 條例規則(二)

後新二納稅義務發生シタル
者ニ對シテハ最近賦課ノト
キ決定シタル資力算定率ニ
ヨリ算出シ事責ヲ生シタル
都度市長ニ於テ其賦課ヲ定
ムルコトヲ得、
第十二條、追加賦課ノ場合
ニ於テハ最近決定シタル賦
課額ノ割合ニ依リテ之ヲ定ム
第十三條、本賦課ノ額ノ一
分ノ額ハ最近決定シタル賦
課額ノ十分ノ一ニ依リテ之
ヲ定ム、
第十四條、定期賦課ノ課率
ハ納期ノ回数ニ等分シタル
モノヲ以テ各納期ノ乘率ト
ス、但シ別ニ乘率ノ割合ヲ
定メタルトキハ此ノ限りニ
アラズ、
第十五條、戶數割總額中納
稅義務者ノ資産ノ狀況ニ依
リ資力ヲ算定シテ賦課スベ
キ額ハ戶數割總額ノ十分ノ
四トス、
第十六條、左ノ各號ノ一ニ
該當スル者ハ戶數割ヲ賦課
セズ、
一、貧困ニヨリ生活ノ爲
メ公費ノ救助又ハ扶助ヲ

チャンガラ収入 国防に獻金

市内上平窪青年
平市上平窪の若衆連今野二郎
君外十三名は舊盆に於けるチ
ャンガラ念佛活動で得たる金
の中から八圓十五銭を國防
金にまた市内第二小學校高等
二年生の字仲町香柳静子さん
は日支事變に奮戦する軍人へ
慰問袋一個を何れも昨二十三
日市役所に寄託した

御誂ひも既製品も 高島屋洋服店

平一電三六六

田中書記の赴任

平區書記から副島區裁判所書
記に榮轉した田中武夫氏は今
二十四日平署午前八時三十分
磐城東線で赴任した

田中書記の赴任

平區書記から副島區裁判所書
記に榮轉した田中武夫氏は今
二十四日平署午前八時三十分
磐城東線で赴任した

田中書記の赴任

平區書記から副島區裁判所書
記に榮轉した田中武夫氏は今
二十四日平署午前八時三十分
磐城東線で赴任した

農業方面

大麥の増収例と小麥耐病品種

栃木縣農林部大宮村の上平精農家神長久一郎氏は從來大麥反當り六俵乃至八俵より獲れなかつた瘦細で大麥の多收獲を計し昨年秋入麥品種虎の尾を一歩播種し合理的栽培を行った結果、作柄は非常によく今年秋の收穫の結果反當り實に十六俵の收穫を見た、同地方に於ける大麥の收穫從來反當り八俵内外で一躍二倍の多收穫は正に同地方の超記録で各方で一驚されてゐる、神長氏の大麥栽培法は畦二尺播き一尺二寸、空地二寸麥踏四回、土入れ年内二回春一回、元ばら一回で施肥量は反當堆肥六十貫、トセニ肥料五十貫(十八圓五十錢)でこれを経済的に見ると大麥十六俵九十二圓八十錢を差引いても七十四圓三十錢の収益をあげた譯で神長氏は今秋五人組共同耕作地を設け反當廿俵の多收穫を目指して耕作することゝなつた、

また同縣芳賀郡須藤村大瀬高津戸武二郎氏は七年前より縣農試場指導の下に小麥作の耐病試験栽培を行つて來たがこの程同場技手川村藤氏によつて成功の折紙をつけられた品種は全國から取寄せた四十三種を試験の結果農林七號と栃木赤ボロ一號とを七代交配したもののが我國小麥種中最も良く病害に耐え得るものと判明右を「栃木萎縮不知」と名づけて一般に普及する事となつた

た本年の作柄は反當六俵半で合計して少くとも廿五の種子がとれるので明年は村内へ十石、郡内各町村へ十石を配布し試作する等目下の耐病品種では日本一と云はれてゐる

牛も豚も優良品の自慢

平市 田町
肉の御 三三屋
用命は

藤沼醫院

平市紺屋町 電五〇七

◆一般印刷物も御引受致します
新しいわき新聞社印刷部

内科、小兒科

大森醫院

醫學士 大森 勇
平市南町 電話二五九番

病室増築、手術室完備

産科 醫學博士 婦人科 五十嵐雄二

平市新川町「電話三六九番」

平病院

院長 醫學博士 鈴木定藏
(平市元共濟病院跡) 電話六四一番

内科 院長 醫學博士 鈴木定藏

小兒科 部長 醫學士 池谷宗三郎
皮膚泌尿器科 部長 醫學士 鈴木定藏
物理療法科 技師 岡田重徳
藥劑科 部長 藥劑師 吉本幸平

診療時間 毎日午前八時より午後九時止
……夜間診療に従事す(急患は此限にあらす)
往診隨時、病室完備 (自炊の便あり)

便利で經濟な 日下家政婦會の 派出婦を御利用

身元確かで品行方正ですから
何をお任せしてもご安心です
平市南町十八西村屋敷町

日下家政婦會

會長 日下すい子
電話 七二三番

債券 公債 兩替 金融

多田井質店

平市大工町 電話五九一番

食品 喫茶 喫酒 酒場を兼ねた。

サロシ

町田平 二五三電

新時代の要求

附屬事業に等外看護婦を特設いたし皆様の御用向へ身元確實なる婦人を派出致します。

平看護婦會

御手不足の御家庭
軽い御病人の付添
妊婦産婦の御家庭
平市南町 電話三〇七

久

横山商店

債券部
平市仲間町
電話 一六〇九番
電話 一七二番

大見切

〇〇〇大見切

奉仕品 婦人洋傘 子供帽子 清涼着

是非御来店を 御待ちして居ります

ツルヤ 平 二四〇

安流丸

持約 山野 遠 徳 平

帝國海上火災保險株式會社

平代理店 關内 電話一六番
事務取扱者 阿部助次郎